

碓ヶ関温泉 — 青森観光の拠点となる、あづましの宿 —

東北道の碓ヶ関IC周辺は温泉の宝庫です。湯の沢温泉、日景温泉、矢立温泉、古遠部温泉、久吉たけのご温泉、少し離れて大鰐温泉郷など、山ひとつ隔てるだけで全く違う泉質をもつ、特徴のある温泉が密集しています。

それらの温泉群の中央に位置するのが碓ヶ関温泉郷。そのオススメの宿が、あづましの宿、関の湯です。東北道の碓ヶ関ICからほど近く、また、十和田湖・八甲田山・白神山地などの青森県の観光名所のどこへも1～2時間程度で行くことができます。青森市や弘前市の都市部から離れているため、宿泊料も妥当です。

『あづましい』というのは津軽地方の方言で、漢字で書くと『吾妻しい』。我が妻がそばにいるように居心地が良い、快適なという意味です。私の妻の場合はそうではない、などという議論はさておき、透明なアルカリ単純泉が掛け流しされたヒバの浴槽は相当に心地よいもので

す。また、地元産の食材を使った和風の料理には定評があります。

特徴のない宿だと思っていたのですが、実際に宿泊してみると、外観以上に内装が綺麗で、食事が美味しく、居心地のよい宿です。ここを拠点に周辺の特徴ある温泉巡りをするのもいいのではないのでしょうか。

温泉もいいが、地元食材を使った料理がとても美味しい。



こちら編集委員会です

【年中無休で投稿をお待ちしております】

年の瀬を迎え、師走の文字どおり駆け回っておられる皆様も多いことと思います。あるいは、お正月のひとときをお手元の本学会誌と共に過ごして、新しい素晴らしい一年のきっかけをみつけていただいているかもしれません。これからの季節は新しい成果も多くまとまってくる時期です。研究論文や学生の皆様の博士・修士論文などの原著論文、各種プロジェクト・最新の研究分野の紹介などの企画記事、もちろん会員の皆様のご意見もお待ちしております。投稿ジャンルの位置づけについては、次のイメージ図 <http://www.jspf.or.jp/journal/img.html> を参考にさせていただくとわかりやすいかと思います。どしどし、ご投稿ください。

また、2015年は、国際光年“the International Year of Light (IYL2015)”として、国連(UN)とユネスコによる様々な活動が行われることとなっていますが、本学会誌としても、皆様からの企画を募集しております。是非、ご協力ください。それでは、新しい年が皆様にとってよい年となりますように。

次回1月号は1月25日発行の予定です。ご期待ください。

[1月号予告]

解説 キャビティリングダウン吸収分光法を用いた高感度計測へのアプローチ

小特集 コーシー条件面(CCS)法によるプラズマ位置形状再構築法

講座 粒子運動論 ～惑星から荷電粒子まで～